

真宗高田派の法苑院(ほうおんいん)妙華寺(みょうけじ)の中川和則と申します。

皆様は「親なきあと」問題についてお聞きされたことがあると思いますが、私(住職)は、令和2年の文化時報社主催の「福祉仏教」の連続講座を受講しました、その中の一コマで、親が面倒を見られなくなったあと、障がいのある子や引きこもりの子がどのように生きていくか(「親なきあと」)の問題を知ることになりました。

お寺として、宗教者として何ができるかを考えながら、お寺としての場の提供や、宗教者としての傾聴を通して伴走型の支援ができるのではないかと思い、「お寺と教会の親なきあと相談室」の津市妙華寺支部として活動を始めました。

問題解決の分野には、つながりがある専門家を紹介しつつ、宗教者として、お悩みごとのお話をお聞かせいただくこと(傾聴)で、相談者の心が少しでも和らぐことをお手伝いできればと思っています。

「できること」と、「できないこと」の制限はありますが、少しでも、お寺として、宗教者として伴走型の支援に取り組んでいければと考えています。

キックオフ行事として令和5年5月13日(土)午後から津市久居アルスプラザ ときの風ホールで講演会を開催しました。(資料参照)

10月7日(土)13時30分から、「親あるあいの語りカフェ」を開催いたします。
令和6年からは、2月6日10月の第一土曜日13時30分から16時頃に開催します。
安心安全の場の約束をしていますので、お気軽にお越しください。

皆様の周りで、お悩みの方やご関心のある方がいらっしゃいましたら、是非、お声がけいただきたいと思っています。

※同封のチラシが必要でございましたら部数をお知らせください。
お送りいたします。

チラシの来年令和6年10月6日(土)は、令和6年10月5日(土)に訂正します。

令和5年09月06日



法苑院 妙華寺 中川 和則
〒514-1121 津市久居二ノ町1743番地
電話 059-255-2846
Mail info@myoke-ji.com

【お寺のHP】

※「親なきあと」問題とは、障がいのある子や引きこもりの子を抱える家族にとってその子の面倒を全面的にみている家族が、将来その子を支えられなくなったあと、その子の財産管理や身上監護を誰がどのように担ってくれるかという漠然として不安や心配で、最も切実な問題で、最大の関心事